

東京学芸大学附属特別支援学校における 金融教育の取り組みⅦ

東京学芸大学附属特別支援学校 金融教育共同研究プロジェクト
小金井俊夫 吉澤洋人 川井優子 山本由佳 松本直巳 松本晃

I はじめに

東京学芸大学附属特別支援学校は、2007年度より東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ金融教育共同研究プロジェクトに参加し、「特別支援教育における金融教育」について研究、実践的検討を行ってきた。今回の報告では、これまで7年間の研究を振り返るとともに、今年度新たに検討を始めた「しごととお金」の指導内容、実践について報告し、この7年間の研究のまとめの報告を行いたいと考えている。

II 研究の課題

研究の課題を次のように設定した。

①金融教育の指導内容の検討

高等部の中・軽度生徒を対象とした金融教育の指導内容のモデルを作成する。

②テキスト、指導案集の作成

上記指導内容を元にしたテキストや指導案集を作成する。

③授業づくり

指導内容の検討のための授業を行う事を通して、授業づくりのポイントを明らかにする。

当初立てられたこの研究課題は現在でも変わらないが、昨年度の研究では「金融教育の広がりに向けて」というテーマで「中学部段階での金融教育の内容」についても検討を行っている。

III 金融教育の指導内容のモデル

1) ねらい

特別支援教育における「金融教育」の学習は、生徒達の卒業後の生活現実の中で具体的にいかされていかなければならない。我々は、特別支援教育における「金融教育」を、「生活とお金に関わる学習内容」ととらえ、現在、そして卒業後に主体的に生活を形成していく生徒達の「くらしづくり」の学習の一環として、そのねらいを検討した。

①金銭に関する生活に必要な知識と技能を身につけ、今の生活にいかすとともに、将来の生活について考えることができる。

②将来の生活の主体者として、金銭管理の方法など生活に必要な金銭に関わる事柄を考え、また身につけることができる。

- ③金銭に関する身近な事柄や、将来必要になる事柄に関心を持ち、自分の将来の生活を想定する中でその内容や必要性について考えることができる

2) 指導内容の検討

特別支援教育（知的障害を主たる対象とする、以下同じ）において、金融教育の内容をどの教科や領域で扱うかという点は、それぞれの学校の教育課程により様々であろう。我々は、金融教育の内容がそれらの教科や領域にまたがるものとして、そして、本人達の生活に近い内容であるべきものと考え、「わたしたちの暮らしとお金」という名称でこの教育の内容をまとめることとした。そして研究の当初には、この「わたしたちの暮らしとお金」を、生徒達の実際の生活で必要になり、また、彼らの生活を豊かにしていくための内容である「暮らしとお金」分野と社会生活の中で見聞きする様々なことばや事象について一社会人として身につけておいても良い知識などの内容で構成する「社会と経済」分野の2つに分け構成することとした。現在では、これらに加え、中学部段階での指導内容の試案を作成し、さらに今年度、生徒たちの学校卒業後の生活基盤を形成する「仕事」にかかわる「お金の学習」の指導内容を検討しているところである。現時点での試案を資料1に載せておくので参考にさせていただきたい。

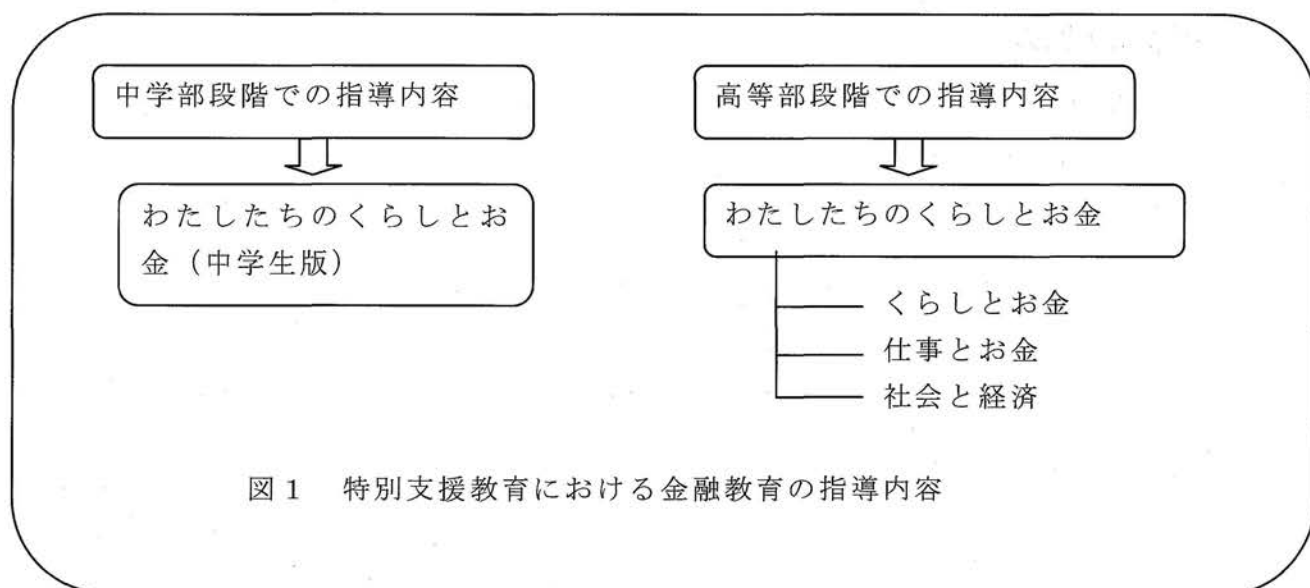


図1 特別支援教育における金融教育の指導内容

IV この7年間の研究について

ここでは、公開講座での報告内容と本校で行ってきた金融教育に関わる授業を中心にこれまでの金融教育研究を振り返ってみたい。なお、表1にこれまで行ってきた研究内容や授業について記すが、「本校で行われた授業実践」の欄のそれぞれの項目の後に記されているのは、授業を行った学年またはグループのことである。本校では週に1時間「暮らし（生活知識）」という授業を設定している。この時間はそれ以前には「進路」の学習で取り上げていた「卒業後の生活」に関わる学習内容を拡充し、まとめた授業である。2007年度、2008年度は高等部1年生から3年生までを能力別グループに分けて学習を行っていたため、金融教育に関わる授業は比較的軽度な2グループで行っていた。2009年度以降は「暮らし（生活知識）」の授業をクラスごとに行うように変更

したため、対象となった学年で軽度グループを作り授業を行っている。2010年度以降の「社会と経済」分野の授業作りにおいては、授業の対象を「くらしとお金」の内容を一通り授業で行ってきた生徒を対象としたかったため、2009年度に授業を行った生徒たちに学校に来てもらい授業作りを行った。表の中に（卒業生）とあるのは、この生徒たちのことである。

1) 2007年度の研究

2007年度は、主に指導内容の検討を行った。特別支援教育における「金融教育」の指導内容を検討するにあたり、それまでこの教育で行われてきたお金に関する学習、例えばお金の種類や数え方、お金の計算などの学習とは一線を画する物とし、連続性はあるものの、これまでとは異なる概念を持つ物にすることを考えた。そこで、特別支援教育における「金融教育」の学習を、生徒達の卒業後の生活現実の中で具体的にいかされていける内容の物にしたいと考えるに至った。我々は、特別支援教育における「金融教育」を、「生活とお金に関わる学習内容」ととらえ、現在、そして卒業後に主体的に生活を形成していく生徒達の「くらしづくり」の学習の一環として、その指導内容をとらえることとした。前述したように本校では「進路の学習」や「くらし（生活知識）」の授業で社会生活への移行期から卒業後の生活に関する内容の学習を重ねてきていた。特別支援教育における「金融教育」の指導内容の検討では、上記の本校のこれまでの実践をまとめ、拡充する形で、知的障害を主たる対象とする特別支援学校高等部の中・軽度の生徒への「くらしづくり」のための学習としてまとめるに至った。

表1 特別支援教育における金融教育に関する研究と授業実践

年度	公開講座のテーマ 特別支援教育分科会	本校での研究の主な 内容	本校で行われた授業実践
2007	特別支援教育における金融教育へのアプローチ	○金融教育の指導内容の検討及び授業実践	・金融機関の利用（高等部軽度G） ・安心なくらし（高等部軽度G）
2008	東京学芸大学附属特別支援学校における金融教育の取り組み	○特別支援学校用テキスト(*1)の作成とテキストを使った授業実践	・金融機関の利用（高等部軽度G） ・ATMを使おう（高等部軽度G）
2009	公開講座開催せず	○テキストを使った授業実践	・自分とお金、現在・将来の自分(高3) ・上手な買い物の仕方(高3) ・外出の計画(高3) ・銀行・ATMの利用(高3) ・安全・安心なくらし(高3) ・将来の私に必要なお金 私はこんな部屋に住みたい(高3) ひとり暮らしに必要なお金、

			<p>生活費・費目について(高3)</p> <p>くらしに必要なお金は</p> <p>いくらくらい(高3)</p> <p>収入と支出(高3)</p>
2010	東京学芸大学附属 特別支援学校にお ける金融教育の取 り組み	○「社会と経済」分 野の授業作り	<p>・プロローグ給料をもらって(卒業生)</p> <p>・収入・労働と賃金</p> <p>私の給料どこから来るの(卒業生)</p> <p>給与明細表を見てみよう(卒業生)</p> <p>給料はだれが使う?(卒業生)</p> <p>預金をしよう(卒業生)</p> <p>・税の徴収と国の支出</p> <p>税金ってなんだろう?(卒業生)</p> <p>税金の払い方、戻し方(卒業生)</p> <p>税金の使われ方(卒業生)</p> <p>国の財政の課題(卒業生)</p>
2011	特別支援教育(知 的障害)における 新テキスト(*2)の 活用	<p>○新テキストを使用 した授業作り</p> <p>○「社会と経済」分 野の授業作り</p>	<p>・銀行の仕組みとはたらき(高2)</p> <p>・クレジットカードの特徴と利用(高2)</p> <p>・給料について(卒業生)</p> <p>・年金ってなんだろう?(卒業生)</p> <p>・電子マネーってなんだろう(卒業生)</p> <p>・ケータイ、スマホ、 インターネットの注意(卒業生)</p> <p>・日本のお金、外国のお金(卒業生)</p> <p>・物の値段はどう決まる?(卒業生)</p>
2012	特別支援教育(知 的障害)における 金融教育の広がり に向けて	<p>○中学部段階での金 融教育の指導内容 の検討</p> <p>○「しごととお金」 の内容的検討</p>	<p>・わたしのくらしとお金(中2)</p> <p>・収入と支出：買い物(中2)</p> <p>・お金を貯めて物を買おう(中2)</p> <p>・現在のわたし、将来のわたし(高3)</p> <p>・しごととお金</p> <p>しごとに就くということ1、2(高3)</p> <p>・給料について(高3)</p> <p>・税金について(高3)</p> <p>・お金のトラブルについて(高3)</p> <p>・わたしの今を見直そう(卒業生)</p>
2013	特別支援教育(知 的障害)における 金融教育の検討	○「しごととお金」 の指導内容の検討 と授業実践	<p>・就職するってどういうこと?1、2 (高3)</p> <p>・給料について(卒業生)</p>

*1 特別支援教育用テキスト「くらしとお金」、以下テキストと記載

*2 テキスト「考えてみよう これからのくらしとお金」、以下新テキストと記載

2) 2008年度の研究

2008年度の主な検討内容のひとつが生徒用テキストの作成である。テキスト「くらしとお金」は、「わたしたちのくらしとお金」という名称でまとめた「特別支援教育における金融教育の指導内容」（以下「指導内容」）の内の前半「くらしとお金」の部分を生徒用のテキストとしてアレンジしたものである。「指導内容」が特別支援学校高等部の中・軽度の生徒を対象としているように、このテキストも同じ生徒達を対象として構成している。テキストは、「指導内容」の前半「くらしとお金」を構成している5つの内容に「はじめに」と「おわりに」をつけた全7章で構成されている。内容としては、「くらしとお金」に盛り込まれた内容の導入の部分でまとめたものと捉えていただければと考えている。また、いくつかの節に1ページ以上のワークシートを配している。各学校等で使用される場合には、これらの点を考慮して頂き、それぞれの授業の対象者の状況等に応じ、また、必要な内容に関してさらに掘り下げて授業を行って頂きたいと考えている。ワークシートについてもそのまま使ってもかまわないし、ひとつの参考としてさらに生徒たちに合わせた工夫をしていただけると、とも考えている。

また、このテキストの作成後、テキストを使った授業実践を行いはじめた。2008年度には、「ATMの使用法」「キャッシュカードや暗証番号の扱い」「ATM利用時のマナー」などの授業を行っている。

これらの授業は、概ね始めにその時間のテーマを示し、内容の解説をしながら一緒に黒板上のワークシートを埋め、最後にワークシートに記入するという展開で行われている。また、授業を組み立てるにあたっては次のような点に配慮するようにした。

- ①生徒の主体性を重視する。
- ②現実的な場面を経験するとともに、将来の自分の生活を想像させる。
- ③生徒に身近な、また具体的な話題から考えさせ、具体的な内容や教材を準備する。
- ④現在の生活や将来の生活への見通しを持たせ、学習内容を自分のもの（こと）としてとらえられるようにする
- ⑤必ず「困ったとき」の対応を教えるとともに、支援者の利用についても考えさせる。
- ⑥ひとつの授業に1つ以上のワークシートを準備し、時間内にまとめさせる。
- ⑦必要に応じて生徒の生活状況などの情報を保護者から得ておく。
- ⑧ゲストティーチャーなども有効に利用する。

3) 2009年度の研究

2009年度は、テキストを使った授業実践が主たる研究内容であった。高等部3年生の3名を対象とし、以下のような内容の授業展開を試みた。

- ①導入：自分とお金、現在・将来の自分
- ②計画的な金銭の使用：上手な買い物の仕方
- ③計画的な金銭の使用：外出の計画
- ④金融機関や社会資源の利用：銀行・ATMの利用
- ⑤危機回避・消費者教育：個人情報、携帯電話、キャッチセールス、出会い系サイト
- ⑥生活設計・金銭管理：将来の私に必要なお金「私はこんな部屋に住みたい」

- ⑦生活設計・金銭管理：ひとりぐらしに必要なお金、生活費・費目について
- ⑧生活設計・金銭管理：生活費について知ろう
- ⑨生活設計・金銭管理：収入と支出
- ⑩支援機関や支援者の利用：私のための支援機関、サポーターズサークル

4) 2010年度の研究

2010年度はそれまで手がつけられていなかった「わたしたちのくらしとお金」の「社会と経済」分野の授業実践とテキストづくりに取り組んだ。「社会と経済」分野の授業に関しては、「くらしとお金」分野の授業を一通り行った生徒を対象としたかったため、前年度に授業づくりを行ってきた卒業生3名に協力していただき、月1回日曜日に2時間の授業を行った。

- | | |
|-------------|--------------|
| ①プロローグ | 給料をもらって・・・ |
| ②収入・労働と賃金1 | 私の給料どこから来るの？ |
| ③収入・労働と賃金2 | 給与明細表を見てみよう1 |
| ④収入・労働と賃金2 | 給与明細表を見てみよう2 |
| ⑤収入・労働と賃金3 | 給料はだれが使う？ |
| ⑥収入・労働と賃金4 | 預金をしよう |
| ⑦税の徴収と国の支出1 | 税金ってなんだろう？1 |
| ⑧税の徴収と国の支出1 | 税金ってなんだろう？2 |
| ⑨税の徴収と国の支出2 | 税金の払い方、戻し方 |
| ⑩税の徴収と国の支出3 | 税金の使われ方 |
| ⑪税の徴収と国の支出4 | 国の財政の課題 |

2010年度は、以上のような授業を行った。学習の内容的には卒業生たちには難しいことも多かったようだが、給与明細の学習などは自分たちのこととして現実的に捉えられるところもあり、真剣に授業に参加してくれていた。

5) 2011年度の研究

2011年度は新しいテキストができあがった年であり、本校でも新テキストを使った授業を試みることとなった。それまでの我々の研究では、対象を高等部の中・軽度生徒とし、特別支援教育における「金融教育」を「生活とお金に関わる学習内容」ととらえ、指導内容等を検討してきた。そこで基本的に考えたことは、「学習内容は、生徒の現在の知識を広げるものであり、かつ、生徒の生活現実に即した、また、生徒が生活の中で実際の活動することを前提とした具体的なもので組織する」ということである。新テキストの内容を授業化するにあたっては、この立場、視点は変わらない。すなわち、新テキストを使用するにあたっては、新テキストの学習内容を授業対象の生徒にあわせること、生徒の生活に寄与できるような具体的知識や情報を与えるものとする等のアレンジを行うこ

この部分は
公開に適さないため
掲載できません。

この部分は
公開に適さないため
掲載できません。

この部分は
公開に適さないため
掲載できません。

とが必要であると考えた。新テキストの授業作りは、以下の2つの授業で行った。

①ステップ3 社会「銀行の仕組みとはたらき」について

②ステップ4 家庭「クレジットカードの特徴と利用」について

「銀行の仕組みとはたらき」の授業については、新テキストで想定している学習内容は、特別支援の生徒にとっては1時間で行うには多いものであり、内容的にも難しい所がある。内容的にどこまで情報として伝えるか、生活上に必要な情報は何かという点からすれば、後の生活で関わってくる銀行の各種業務や預金、キャッシュカードの扱いなどに重点が置かれてよいものと考えられた。

「クレジットカードの特徴と利用」で想定している学習内容は、概ね本校の生徒にも必要な内容と考えられる。特にクレジットカードでの買い物についての注意点はとても重要な所である。新テキストに盛り込まれた学習内容をどのようにかみ砕いていくかという点が課題となる。

また、「社会と経済」分野に関する授業作りも継続して行ってきた。2011年度に行われた授業は、以下のようなものである。

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| ①収入・労働と賃金1 | 私の給料どこから来るの？ |
| ②収入・労働と賃金2 | 給与明細表を見てみよう |
| ③年金とその問題 | 年金って何だろう？ |
| ④新しいお金とその利用 | 電子マネーって何だろう |
| ⑤お金に関わる | ケータイ、スマホ、インターネットの注意
トラブルと対処法 |
| ⑥貨幣の種類と価値 | 日本のお金、外国のお金 |
| ⑦流通と経済 | 物の値段はどう決まる？ |

6) 2012年度の研究

2012年度の研究は「中学部段階における金融教育の検討」であった。これまで高等部段階での「金融教育」を「生活とお金に関わる指導内容」ととらえてきた。そこでは、「金融教育の指導内容」は「生徒の現在の知識を広げるものであり、かつ、生徒の生活現実に即した、また、生徒が生活の中で実際に活動することを前提とした具体的なもので組織する」ということを原則に検討してきた。中学部段階での指導内容の考え方も基本的には変わるものではない。ただ、高等部段階の指導内容に比べ、より基礎的な内容が盛り込まれていくものと考えている。その点をふまえて作成したものが資料2にある中学部段階での指導内容一覧である。対象は中学部段階の軽・中度の生徒である。

この中学部段階での指導内容の特徴は以下のように示すことができる。すなわち、知的障害を主たる対象とする特別支援学校中学部は、特別支援学校の小学部及び小学校の特別支援学級の卒業生で組織され、生徒の実態は様々である。また、その障害の特性として、年齢以上に生徒の能力や学習の達成度が幅広い。そのため、学習を組織する際には個々の生徒の力に応じた学習を考えなければならない。しかし一方で、当該年齢段階にふさわしい学習内容を用意することも重要である。今回検討した中学部段階での指導内容は、前述の前提とこれらの状況を加味して作成している。また、知的障害の特性として、一回の授業ですべてきちんと学習内容を理解し生活の中で使用できるわけではなく、必要に応じて

同様の内容を繰り返し学習することも必要である。そのため今回の指導内容は、高等部に進学してからも引き続き同様のテーマで継続学習をすることを前提として作成している。

また、中学部段階では、小学部・小学校に引き続き金銭に関する学習が数学や生活単元学習の中で取り扱われている。金種の判別やお金の数え方、お金の計算、お金の概算などの学習がそれにあたる。今回検討した「金融教育」の指導内容は、目的的にはこれらの学習と同様のものともなろうが、内容的には具体的・実務的内容というよりもむしろ「将来のくらしづくりに向けた知識とその生活化」の学習としてとらえていただければと思う。そして、これらの学習を対象と考えられる生徒に、中学部三年間でじっくり行っておくことが、高等部進学後にさらに生徒が自分の「くらしづくり」を考えることにつながれることになるものとする。

授業作りについては、この指導内容を元に中学部で3回の授業を計画した。

- ①くらしの中のお金 自分とお金のかかわりの再認識
- ②くらしの中のお金 自分のくらしと家族の収入
- ③生活設計 お金を貯めて物を買おう

ここでは、中学部段階の生徒個々のお金に関する認識の違いが大きく浮き彫りにされた。また、実際にあまりお金を使う経験もしていないことも明らかであった。学習を継続していく中で、身近なお金を使う経験を増やし、お金に関する認識を広げていくことも重要な課題であることがわかった。

上記と平行して高等部における「社会と経済」の授業作りも行ってきた。そこでは、以下のような授業を行ってきた。

- ①導入 現在のわたし、将来のわたし
- ②仕事とお金 仕事に就くということ1、2
- ③収入・労働と賃金 給料について
- ④税の徴収と国の支出 税金について
- ⑤お金に関わる お金のトラブルについて

トラブルと対処法

昨年度のこれらの授業の中で、高等部を卒業したらしごとに就くということ、しごとに絡んで様々なお金に関わる事象があることを再認識するに至った。特に卒業後の生活の基盤となる「仕事をし、収入を得る」ことについて、これまでの指導内容では検討されていないことがわかった。そのため、これまで検討してきた「わたしたちのくらしとお金」という指導内容の「くらしとお金」、「社会と経済」の2分野に「仕事とお金」というあらたな分野を加えるという方向性を持つに至った。その内容的検討は次年度に持ち越した。

7) 2013年度の研究

今年度の課題は、「仕事とお金」という新分野の指導内容の検討である。これには「くらしとお金」、「社会と経済」のそれぞれの分野の再編成が必要となった。このため、指導内容を全般的に見直し、資料1のような試案を作成した。

「仕事とお金」分野について見てみると、内容的には以下の7項目で構成した。

- ①勤労観・労働感の形成と就職の実際
- ②職業選択と職業生活の実際

- ③支援機関の利用、求人・求職について
- ④契約することの意味の理解と、契約書の見方
- ⑤収入、労働と賃金、給与明細の見方
- ⑥退職時の対応
- ⑦勤務先でのトラブル回避

この中で、仕事に就くことや職業選択の内容について扱っているのは、知的障害の生徒たちには「仕事」と「お金」に関わることを細切れで教えていくのではなく、就職することから退職することまでの全体像で教えていくことが必要だと考えたためである。また、就職するまでに必要となる項目が多いのは、学習の対象が高等部の生徒であることと、必要となる基本的内容が就職に際しての給料や労働条件に関わること、職場でのトラブル回避に関わることであるという認識からである。つまり、これらの内容は、ある面での生徒たちに対する「就職ガイド」であるという側面を持つものであるといえよう。

今年度、この「仕事とお金」の指導内容に基づき、高3の生徒に「就職するってどういうこと」の授業を、卒業生のグループに「わたしの給料どこから来るの」の授業を行った。高3生徒の授業では、対象児の特性もあり、なかなか「就職すること」の現実感が難しいところであったが、それでも就職に向けての自分たちの「課題」を再確認していくことができたように思う。また、卒業生の授業では、一方では、実際に給料をもらい始めているため、その分現実感がありよく理解できたところと、もう一方では、税金や保険の控除の話は現実感がなく、卒業生たちにとっては難しいことのようにであった。

V まとめと感想

以下、この7年間の研究・検討について感想を含めまとめていくこととする

1) 金融教育のとらえ方

研究の当初、「金融教育」という我々の世界になじみのない概念をどうとらえていくかが大きな問題であった。ここまで記してきたものが「金融教育」という概念に当てはまるものかどうかは定かではないが、高等部の時期から社会への移行期、社会人となってからの学習として必要となる「お金」に関する学習内容についてまとめられたことは非常に有意義であったと感じている。他の教科等では学齢期からの学習内容として考えられているが、知的障害を対象とした場合、この内容は高等部以降で中・軽度の生徒に必要となり、また、卒業以降も学習を重ねていくことが必要となる内容であることを実感している。多くの生徒たちがこのような学習機会が持てるようになることを願うしだいである。

2) 指導内容について

今年度の研究を含め、「指導内容」としてまとめてきたものは、まだことばの整合性がとれないなど不備が多い。今後さらに検討を重ね、よりしっかりしたものにしていくことが必要である。

3) テキストについて

特別支援用テキスト「くらしとお金」を作成できたことは、我々にとってはとても意味深いものであった。このテキストはいろいろな方に手に取っていただいているようである。だが、これはまだ「指導内容」の一部をあつかったものでしかない。今後さらに「仕

事とお金」分野や「社会と経済」分野のものを何らかの方法で形にしていいたいと考えている。

4) 指導案集について

7年間の研究の中でかなりの数の授業を行ってきた。記録も残してきた。しかし、研究の当初から指導案集の作成を目指していたが、そこまで至らなかったことは悔やまれるところである。つたない授業の紹介ではあるが、今後継続して取り組んでいきたいと考えている。

最後にこの7年間の感想を記したい。我々は、7年間にわたり研究し、授業を行ってきた。この中で感じたことはやはり知的障害の子どもたちの特性であった。1回の授業では十分に理解することが難しい。生活経験の少なさから授業で行った内容を想像することが難しい。学習を積み重ねていくことが難しい。抽象的概念の理解が難しい。このような特性を持つ彼ら、彼女らが、より複雑になっていく社会の中で「豊かに生きる」ことを我々がどのように支援できるのか。それに必要な内容を「金融教育」という中に取り込むことができたのか、ということを常に感じながら検討してきた。このことに関しては、我々の学校がこの20年間に指向してきたことの一部をこの学習に取り込んでいくことができたように思う。「キャリア教育」という名称で「就職に結びつく学習」が指導の中心として位置づけられている状況ではあるが、できるならば上述したように、彼ら、彼女らに対する高等部卒業以降の学習が保証され、高等部以降にこのような内容を学習する機会が多くあるように思うところである。

資料1 「わたしたちの暮らしとお金」の指導内容 (2013 改訂)

1. 目標

- ①金銭に関する生活に必要な知識と技能を身につけ、今の生活にいかすとともに、将来の生活について考えることができる。
- ②将来の生活の主体者として、金銭管理の方法など生活に必要な金銭に関わる事柄を考えることができる。
- ③金銭に関する身近な事柄や、将来必要になるであろう事柄に関心を持ち、自分の将来の生活を想定する中でその内容や必要性について考えることができる。

2. 内容

- 1) 身近な金銭管理や生活設計 (分野：暮らしとお金)
 - ・計画的な金銭の使用
 - ・金融機関や社会資源の利用
 - ・金銭管理・生活設計
 - ・消費者教育・危機回避
 - ・支援機関や支援者の利用
- 2) 仕事に関わるお金の知識と理解 (分野：仕事とお金)
 - ・勤労観・労働感の形成と就職の実際
 - ・職業選択と職業生活の実際
 - ・支援機関の利用、求人・求職について
 - ・契約することの意味の理解と、契約書の見方
 - ・収入、労働と賃金、給与明細の見方
 - ・退職時の対応
 - ・勤務先でのトラブル回避
- 3) 社会や経済に関する知識と理解 (分野：社会と経済)
 - ・収入・労働と賃金
 - ・税の徴収と国の支出
 - ・年金とその問題
 - ・流通と経済についての基礎知識
 - ・貨幣の種類と価値
 - ・新しいお金や新しい機器の利用と注意
 - ・お金に関する犯罪とその予防

3. 具体的内容と指導の展開

1) 暮らしとお金

指 導 内 容	ね ら い	指導の具体的項目	授業展開例
上手にお金を使おう (計画的な 金銭の使用)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に関わる金銭的事象に関して金銭の使用に関する計画の立て方や上手なお金の使い方を身につける ・金銭を計画的に使うことの大切さを知り、行動できる 	・買い物をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要なものは何 ・生活に必要なものが売っている場所 ・いろいろな買い物の仕方 ・買い物の際に気をつけること ・かしこい買い物の仕方
		・外出をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・外出の計画を立てよう ・外出に必要な費用は ・楽しく外出するために
		・高いものを 買いたいときは	<ul style="list-style-type: none"> ・高いものを買いたいときはどうする ・お金を計画的に貯める ・相談しながら考えよう
		・こづかい帳を つけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・こづかい帳をつけてみよう ・費目について ・こづかい帳の上手な使い方
銀行や 郵便局に行こう (金融機関や 社会資源の利用)	<ul style="list-style-type: none"> ・金融機関の役割について知る ・金融機関の利用方法を知り、利用の方法を身につける 	・銀行や 郵便局の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行や郵便局でできること ・金融機関に行ってみよう ・預金や貯金、預貯金の目的 ・給与振り込み

	ける ・金融機関等の利用の際に 気を付けなければならない ことがわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・預金や貯金について ・金融機関の 便利な使い方 ・銀行や郵便局を 使うときの注意 	<ul style="list-style-type: none"> ・預金や貯金の仕方 ・通帳を作ろう ・キャッシュカードについて ・キャッシュカードを 使ってみよう ・給与振り込み ・自動引き落としの使い方と注意 ・クレジットカード ・通帳や暗証番号の扱い方 ・キャッシュカードや 暗証番号の注意
卒業後の暮らし (生活設計・ 金銭管理)	・卒業後の生活について考 えることができ、金銭面 で必要な知識を身につけ ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の生活に ついて考えよう ・収入と支出 ・生活費について 知ろう ・家計簿を つけよう ・自分にあった お金の管理 ・自分のしたい 将来の暮らし 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業したら(将来を考える) ・どんな暮らしがしたい (将来の希望、住まいなどの 暮らし方の実際) ・仕事と給料 ・暮らし方のいろいろ (1日、1週間、 1ヶ月、1年の生活) ・趣味を持とう (豊かな暮らしのために) ・ひとりぐらしに必要なお金 ・仕事と給料 ・自分のくらす場所 ・収入・支出ってなに ・支出の費目 ・年金について ・税金について ・生活費の内訳は ・いくらくらいかかるかな ・自分の生活について考えよう ・家計簿の費目 ・自分にあった家計簿 ・家計簿をつけてみよう ・お金の管理ってどんなこと ・自分だったらどうしよう ・自分にあった金銭の管理 ・自分の目指す将来の暮らし ・仕事と収入 ・生活のためのお金 ・将来のためにがんばること
安心な暮らし (危機回避、 消費者教育)	<ul style="list-style-type: none"> ・プリペイドカードやクレ ジットカード、その他の 新しいお金についての知 識や、適切な使い方がわ かる ・キャッチセールス等お金 に関する危険についての 知識を持ち、危機回避の 方法がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・便利なお金と その使い方 ・銀行や郵便局を 使うときの注意 ・お金の危険 	<ul style="list-style-type: none"> ・便利なお金のいろいろ ・クレジットカード ・プリペイドカード ・電子マネー ・便利なお金とその注意 ・通帳や暗証番号の扱い方 ・キャッシュカードや 暗証番号の注意 ・どんな危険があるのだろう ・悪徳商法、キャッチセールス ・通信販売、インターネットの危 険 ・携帯電話をかしこく使おう ・個人情報について ・印鑑の使用や暗証番号の扱い ・被害者になったら ・加害者にならないために
困ったときには (支援機関や	・お金に関してどんなこと で困ることがあるかを理	・困った時って どんなとき	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時ってどんなとき ・困った時はどうしたらいい

支援者の利用)	解し、その対処方法がわかる ・ 支援機関や支援者の存在がわかり、その利用方法を身につける	・ 支援機関や支援者の利用	・ 支援機関って何だろう ・ 支援機関や支援者の利用の仕方 ・ 私が使える支援機関 ・ サポートーズサークルについて
---------	---	---------------	---

2) 仕事とお金

指 導 内 容	ね ら い	指導の具体的項目	授業展開例
就職するって どういうこと (勤労観・労働感の 形成と就職の実際)	・ 就職することの意味やそのために必要なことを考える ・ 就職までのスケジュールや就職を支援してくれる機関について知る	・ 就職することの意味 ・ 就職するためにがんばること ・ 就職までのスケジュール ・ 面接、実習、内定、契約などの意味 ・ 支援機関について	・ 卒業したらどうしたい ・ 就職するってどういうこと ・ 就職するために必要なことは ・ 就職までのスケジュール ・ 就職までに行うこととその実際 ・ 就職を支援してくれる人
あなたはどんな しごとがしたい (職業選択と 職業生活の実際)	・ 自分のしたい仕事について考える ・ しごとに関する具体的イメージを持つ ・ 自分の働き方について考える	・ 自分のしたい仕事 ・ 仕事の具体的イメージ ・ 就職後の生活の実際・	・ あなたはどんな仕事をしたい ・ 働くことってどういうこと ・ 就職したらどうなるの ・ 卒業後のわたしの暮らし方
ハローワークも 支援機関 (支援機関の利用、 求人・求職に ついて)	・ ハローワークの利用について知る ・ 求人票や求職票の見方を知る	・ ハローワークの利用 ・ 求職の方法と求人票の見方	・ ハローワークって何だろう ・ ハローワークの使い方 ・ 求人票を見てみよう
契約って大事だよ (契約することの 意味の理解と、 契約書の見方)	・ 契約することの意味がわかる ・ 契約書の見方を知る ・ 契約の場面をイメージできる	・ 契約することの意味 ・ 契約書の見方 ・ 契約の実際	・ 契約って何だろう ・ 契約書を見てみよう ・ 契約に行くときは
私の給料 どこからくるの？ (収入・労働 と賃金)	・ 労働と賃金に関する基本的知識を身につける ・ 卒業後の生活を考えながら、自分仕事や給料の使い方を考えることができる	・ 仕事と給料 ・ 給与の使い方	・ 給料はいくら？ ・ 働くことと給料 ・ 給料はどう使う？ ・ 卒業後の生活と給料の使い方
給与明細を みてみよう (給与明細の 見方1)	・ 給与明細の見方を知る ・ 給与明細の項目について知る	・ 給与明細の見方	・ 給料の中身は何だろう ・ 給料明細を見てみよう
税金ってなんだろう (給与明細の 見方2)	・ 税金についての基本的知識を知る ・ 給料に関わる税金について知る	・ 税金の基礎知識 ・ 給与と税金	・ 税金って何だろう？ ・ 給料から引かれている税金
保険について 覚えておこう (給与明細の 見方3)	・ 保険の役割を知る ・ 雇用保険、労災保険、健康保険、年金保険などについての基礎知識を身につける	・ 保険についての基礎知識 ・ 仕事に関わる保険	・ 保険について覚えておこう ・ 仕事に関わる保険ってなに
仕事を やめるときには (退職時の対応)	・ 退職したときの対応について知る ・ 再就職の方法を知る	・ 退職の際の対処法 ・ 支援機関の利用	・ 仕事をやめるときには ・ 退職したときの注意 ・ 再就職を目指そう

職場の中のお金のトラブル (勤務先でのトラブル回避)	<ul style="list-style-type: none"> ・お金に関わるいろいろなトラブルについて知り、その対処法がわかる ・会社でお金のことでトラブルにならない方法を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金のトラブルとは ・いろいろなトラブルと対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金のことでトラブルが・・ ・勤務先でのお金のトラブル対処法 ・トラブルを起こさないために
-------------------------------	--	---	--

3) 社会と経済

指導内容	ねらい	指導の具体的項目	授業展開例
給料(工賃)について (収入・労働と賃金)	<ul style="list-style-type: none"> ・労働と賃金に関する基本的知識を身につける ・卒業後の生活を考えながら、自分仕事や給料の使い方を考えることができる 	・仕事と給料	<ul style="list-style-type: none"> ・給料はいくら? ・働くことと給料
		・給与明細の見方	<ul style="list-style-type: none"> ・給料の中身は何だろう ・給料明細を見てみよう
税金って何だろう (税の徴収と国の支出)	<ul style="list-style-type: none"> ・税金やその使われ方についての基本的知識を身につける 	・税金の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・税金って何? ・どんな税金があるの? ・税金の払い方、戻し方
		・税金の使われ方	<ul style="list-style-type: none"> ・国の財政と税金 ・税金の使われ方
年金について (年金とその問題)	<ul style="list-style-type: none"> ・年金についての基本的知識を身につける ・年金の支払い方や年金の受け取り方がわかる 	・年金ってなに	<ul style="list-style-type: none"> ・年金ってなに? ・年金の仕組み ・障害基礎年金について
		・年金の支払い方	<ul style="list-style-type: none"> ・年金はどこで支払う? ・年金についての注意
		・年金を受けるには	<ul style="list-style-type: none"> ・年金をもらえるかな? ・年金の手続きの仕方
値段の仕組み (流通と経済)	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの流通や値段の決まり方などに関する基本的知識を身につける 	・値段はどうやって決まる	<ul style="list-style-type: none"> ・物には値段がある ・値段はどうやって決まる?
		・流通の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・流通って何のこと? ・品物の動き方と値段
日本のお金、外国のお金 (貨幣の種類と価値)	<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣の種類や価値についての基本的知識を身につける ・外国の貨幣やその価値について理解できる 	・日本のお金、外国のお金	<ul style="list-style-type: none"> ・外国のお金はどんな物? ・日本のお金と比べてみよう
		・両替と為替 ・円高・円安	<ul style="list-style-type: none"> ・外国のお金に両替するには ・為替って何だろう ・円安、円高と海外旅行
電子マネーって何だろう (新しいお金とその利用)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々に変化している電子マネーについての基礎知識を身につける 	・電子マネーの使い方と注意	<ul style="list-style-type: none"> ・電子マネーのいろいろ ・電子マネーの利用の仕方 ・電子マネーを使うときの注意
スマートフォンやタブレットを 使ってみよう (新しい機器の利用と注意)	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンやタブレットの使い方を知るとともに、使用に関わる費用について知る 	・スマートフォンやタブレットPCの使い方と注意	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使ってみよう ・タブレットにかかる費用 ・タブレットを使うときの注意
お金に関わる トラブルと対処方	<ul style="list-style-type: none"> ・お金に関わるいろいろなトラブルについて知り、その対処法がわかる ・お金に関わる犯罪についての基本的知識を身につける ・被害者にも加害者にもならないためにどのようにすることが必要かわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金のトラブルとは ・いろいろなトラブルと対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金のトラブルとは ・家族や友人とのトラブル ・勤務先でのトラブル ・ケータイ、スマホ、インターネットのトラブルと注意
		<ul style="list-style-type: none"> ・お金に関わる犯罪とは ・被害者になったら ・犯罪を起こさないために 	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪って何だろう ・犯罪を犯すとうなるの? ・お金に関わる犯罪ってどんなこと? ・被害者や加害者にならないために